

尾白川溪谷

尾白川溪谷は、北杜市の南アルプス連峰の麓に位置しています。山梨のハイキングやキャンプ場として人気のエリアです。南アルプスユネスコエコパークに登録されています。谷間には尾白川が流れ、甲斐駒ヶ岳を源流としています。

富士川が谷間を流れています。日本三大急流の一つであり、日本で最も原始的な水源地の一つです。

川の名前の由来

尾白川（おじらがわ）の直訳は「白尾の川」。尾白川の頭の「お」の漢字は尾で、尾を意味します。また、「じら」の漢字は「白」、つまり「白」です。

川の名前の由来は二つ考えられます。

一つは、小尾権三郎（1796～1819）の名前に由来する可能性があります。彼は近くの甲斐駒ヶ岳に登った最初の人です。小尾は「小尾」と書くが、これには「尾」という漢字が含まれています。彼の名前には歴史的な意味があります。登山後に神格化されたと言われており、黒戸尾根には彼の姿をした像があります。

もう一つは、聖徳太子（574～622年）の伝説によると、白い尻尾の黒い馬に乗って登ったとされています。

このことから、直訳すると「白尾の川」となります。水は肉眼ではエメラルドグリーンに見えますが、実際には透き通っています。この緑色は、小石を敷き詰めた川底の白さと周囲の風景の映り込みによる錯覚です。また、山の周りをいろいろな角度から見ると、水の色が変化して見えます。

南アルプスと甲斐駒ヶ岳

南アルプスは日本最大の山域で、2014年にユネスコエコパークに登録されました。標高2,967mの甲斐駒ヶ岳は、多様な植物や野生生物を育み、環境・経済・宗教的遺産として高く評価されています。山脈を流れる豊かな水は、野生のイチゴや高山植物、ニホンカモシカ、ライチョウなど多くの動植物を育んでいます。また、熊も時々目撃されているので、訓練を受けたガイドと一緒に登ってみましょう。

山の参拝

日本には、特定の山を崇拝する伝統を实践する宗教団体がまだ存在します。駒ヶ岳講と呼ばれる宗教団体の信者は、山頂に登りながらお経を唱えることで山を崇拝します。山頂付近では、白衣をまとったメンバーが儀式的な踊りを披露します。

地質と淡水

尾白川の清流は、甲斐駒ヶ岳の花崗岩の岩盤に起因しています。花崗岩は、山を通過する水の天然のフィルターとしての役割を果たしています。実際、尾白川渓谷の一部の小川には、20年以上前から山の自然のフィルターを通過してきた雨水が流れています。

経済的価値

尾白川渓谷の水は、山梨経済に直接影響を与えています。甲斐駒ヶ岳からの水が尾白川を養分とし、北杜の白州地区に流れ込んでいます。白州の水は、大手飲料会社が日本酒やウイスキーの製造に利用しています。サントリー、コカ・コーラ、七賢などの大手飲料会社は、その水の純度の高さから山梨に工場を構えています。